

## だい しょう けんせつげんば つか ようご きょうどうせいかつじょう ちゅうい 第4章 建設現場で使われるあいさつ・用語・共同生活上の注意

けんせつげんば にちじょう つか とくべつ ことば ようご つか  
建設現場では、日常ではあまり使われない特別な言葉や用語が使われます。こ  
りかい  
れらを理解することは、スムーズなコミュニケーションのためだけではなく、さぎょう あんぜん  
作業を安全  
に、こうりつてき すす たいせつ  
に、効率的に進めるためにも大切です。

### きんきゅうじ よ 4.1 あいさつ・緊急時の呼びかけなど

ひと  
人は、あいさつをしてくれた相手に、あいて よ いんしょう も  
良い印象を持ちやすくなります。また、相手に言  
ことば  
う言葉によっては、あいて まえむ きも こうか  
相手の前向きな気持ちにさせる効果もあります。相手のことを知らなく  
げんき  
ても、元気にあいさつしましょう。

#### 4.1.1 「おはようございます」

あさ  
「おはようございます」は、朝のあいさつの基本です。あさはじ であ ひと  
朝初めて出会った人に「おはよ  
うございます」とあいさつをしましょう。

#### あんぜん 4.1.2 「ご安全に」

けんせつげんば きけん じぶん あんぜん かんが  
建設現場にはたくさんの危険があります。自分の安全を考  
えてだけではなく、あいて  
たい じこ な ぶじ にち さぎょう すす  
対しても事故やケガがなく、無事に1日の作業が進められることを願う気持ちを表すた  
ねが きも あらわ  
めに「ご安全に」が使われます。相手のことを思いやる気持ちを表す言葉ですから、言  
あんぜん つか  
われた相手も前向きな気持ちになって作業を行  
あいて まえむ きも さぎょう おこな  
うことができます。

ちょうれい さいご ぜんいん きょう にち あんぜん い たが  
たとえば、朝礼の最後には、全員で「今日も1日、ご安全に！」と言って、お互いの  
ぶじ ねが さぎょうかいし きけん さぎょう  
無事を願って作業開始します。危険な作業にとりかかる相手とすれ違う時にも「ご安全  
こえ い  
に！」と声をかけましょう。言われた相手は、あいて きも あんぜん き  
気持ちよく、安全に気をつけようという気

もちになっ<sup>も</sup>て作業現場<sup>さぎょうげんば</sup>に行くことができます。

#### 4. 1. 3 「おつかれさまです」

「おつかれさまです」は、相手の仕事や苦勞<sup>くろう</sup>に対して、感謝<sup>かんしゃ</sup>して 労<sup>ねぎら</sup>う意味<sup>い</sup>の言葉<sup>ことば</sup>です。  
「ご安全<sup>ごあんぜん</sup>に」とは違って、「おつかれさまです」は、建設現場<sup>けんせつげんば</sup>だけではなく、働<sup>はたら</sup>く人<sup>ひと</sup>がい  
る場所<sup>ばしょ</sup>であれば、どこでも使える言葉<sup>ことば</sup>です。事務所<sup>じむしょ</sup>や休憩場所<sup>きゅうけいばしょ</sup>、廊下<sup>ろうか</sup>などですれ違<sup>ちが</sup>ったと  
きにも使えます。仕事<sup>しごと</sup>が終わ<sup>お</sup>って帰<sup>かえ</sup>る人<sup>ひと</sup>に対しては、「おつかれさまでした！」と元氣<sup>げんき</sup>よく  
声<sup>こえ</sup>をかけましょう。

#### 4. 1. 4 「ご苦勞さま」

「ご苦勞<sup>くろう</sup>さま」は、相手<sup>あいて</sup>が自分<sup>じぶん</sup>にしてくれたこと<sup>こと</sup>に対して 感謝<sup>たい</sup>し、労<sup>かんしゃ</sup>う意味<sup>ねぎら</sup>がある言葉<sup>い</sup>  
です。現場監督<sup>げんばかんとく</sup>・職<sup>しよく</sup>長<sup>ちょう</sup>・先輩<sup>せんぱい</sup>など自分<sup>じぶん</sup>より目上<sup>めうえ</sup>の人<sup>ひと</sup>に対しても使える言葉<sup>ことば</sup>ですが、日本<sup>にほん</sup>人<sup>じん</sup>  
の多く<sup>おほく</sup>は、目上<sup>めうえ</sup>の人<sup>ひと</sup>に使うのは失礼<sup>しつれい</sup>だと考<sup>かんが</sup>えているよう<sup>よう</sup>です。「ご苦勞<sup>くろう</sup>さま」は、目上<sup>めうえ</sup>  
人<sup>ひと</sup>には使<sup>つか</sup>わないほう<sup>ほう</sup>が良<sup>よ</sup>いでしょう。  
逆<sup>ぎやく</sup>に目上<sup>めうえ</sup>の人<sup>ひと</sup>から、「ご苦勞<sup>くろう</sup>さま！」と言<sup>い</sup>われたら、相手<sup>あいて</sup>があなた<sup>あなた</sup>に対して感謝<sup>たい</sup>してい  
るということ<sup>こと</sup>です。「ありがとう<sup>げんき</sup>ございます！」と元氣<sup>へんじ</sup>よく返事<sup>へんじ</sup>をしまし<sup>し</sup>ょう。

#### 4. 1. 5 「失礼<sup>しつれい</sup>します」

「失礼<sup>しつれい</sup>します」は、建設現場<sup>けんせつげんば</sup>だけではなく、だれでもよく使う言葉<sup>ことば</sup>です。「礼<sup>れい</sup>」とは礼儀<sup>れいぎ</sup>  
(マナー) のこと<sup>こと</sup>で、「失<sup>しつ</sup>」は失<sup>う</sup>うこと<sup>こと</sup>です。マナーに欠<sup>か</sup>けているというの<sup>の</sup>がもとの意味<sup>い</sup>  
ですが、相手<sup>あいて</sup>を悪<sup>わる</sup>い気持ち<sup>きもち</sup>にさせる言葉<sup>ことば</sup>ではありません。

たとえば、部屋<sup>へや</sup>に入<sup>はい</sup>るときに「(お話し<sup>はな</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>ところ) 失礼<sup>しつれい</sup>します」と言<sup>い</sup>いますが、これ  
は部屋<sup>へや</sup>の中<sup>なか</sup>で仕事<sup>しごと</sup>をしている人<sup>ひと</sup>の邪魔<sup>じゃま</sup>をしてしまうかもしれ<sup>し</sup>ないという気持ち<sup>きもち</sup>を表<sup>あらわ</sup>して

います。

はな あいて だれ かいわちゆう とき いそ つた  
話したい相手が誰かと会話中の時に、急いで伝えなければならないことがあるときには、  
は、<sup>しつれい</sup>「失礼します」と言います。

しごと ひと さき かえ さき しつれい  
仕事をしている人より先に帰らなければならないときには「お先に失礼します」という  
つか かた たい つか い  
使い方をします。それに対しては、「お疲れさまでした」と言います。

#### 4. 1. 6 「<sup>あぶ</sup>危ない」

さぎよう しゅうちゆう じぶん せま きけん き つ  
作業に 集 中 していると、自分に迫っている危険に気が付かないことがあります。まわ  
りにいる人がその人の危険を感じたときに、とっさに出る言葉が「<sup>あぶ</sup>危ない！」です。その  
きけん うえ もの お ばあい よこ もの ばあい あぶ  
危険が、上から物が落ちてくる場合や、横から物がぶつかってくる場合には、「<sup>あぶ</sup>危ない！よ  
けろっ！」と言います。「<sup>あぶ</sup>危ない！」と叫ぶ声が聞こえたら、すぐに<sup>はんのう</sup>反応しましょう。

#### 4. 2 <sup>けんせつげんば</sup>建設現場で<sup>つか</sup>使われる<sup>ようご</sup>用語

4.2 では、<sup>しよくちゆう</sup>職 長 や<sup>せんばい</sup>先輩の<sup>し じ う</sup>指示を受けて<sup>さぎよう</sup>作業する<sup>うえ</sup>上で、<sup>し</sup>知っておきたい<sup>ようご</sup>用語を<sup>かいせつ</sup>解説して  
います。

##### 4. 2. 1 <sup>すみだ</sup>墨出しに<sup>かん</sup>関する<sup>ようご</sup>用語

<sup>すみだ</sup>【墨出し】<sup>じめん</sup>地面などに<sup>こうじ</sup>工事に必要な<sup>ひつよう</sup>さまざまな<sup>きじゆんせん</sup>基準線を<sup>ひ</sup>引くことです。<sup>むかし</sup>昔 からある<sup>すみ</sup>墨つ  
ばや、<sup>すみだ</sup>レーザー<sup>き</sup>墨出し<sup>つか</sup>器が使われます。

<sup>きじゆんすみ</sup>【基準墨】<sup>たてもの</sup>建物を<sup>た</sup>建てる<sup>きじゆん</sup>ときに<sup>すいへい</sup>基準となる<sup>すいちよく</sup>水平・<sup>ちよくせん</sup>垂直な<sup>きじゆんすみ</sup>直線です。<sup>はしら</sup>基準 墨 から、<sup>かべ</sup>柱 や<sup>ちゅうしんせん</sup>壁 の<sup>とお</sup>中 心 <sup>しん</sup>線 ( <sup>か</sup>通 り <sup>だ</sup>芯 ) を<sup>か</sup>書 き <sup>だ</sup>出 し て い き ま す。

<sup>とお</sup>【通り芯】<sup>しん</sup>中 心 を <sup>ちゅうしん</sup>通 る <sup>とお</sup>線 の <sup>せん</sup>こ と です。「<sup>かべしん</sup>壁 芯」や「<sup>はしらしん</sup>柱 芯」を<sup>さ</sup>指 して <sup>い</sup>言 う こ と も あ り ま す。

【逃げ墨】障害物などにより、墨が出せない場合に引く線です。「返り墨」とも言います。

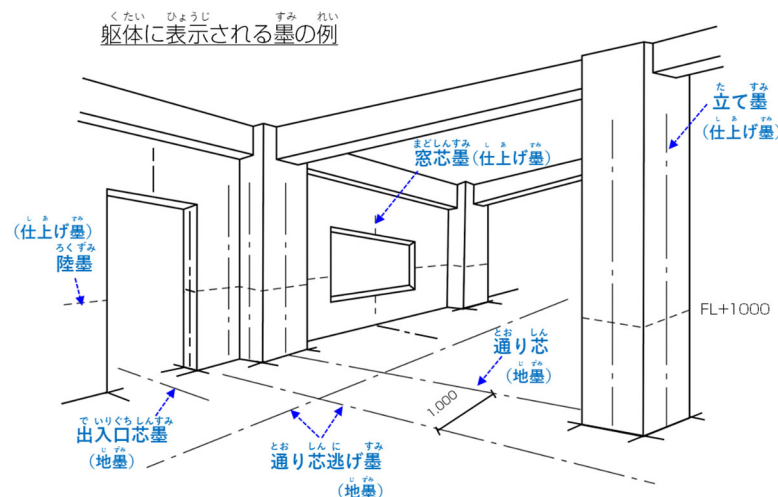
基準になる墨から一定の寸法を離して、平行または延長線上に墨を出します。基準になる墨からどれだけ離して引いたのかがわかるように、離れた（逃げた）寸法を書いておきます。

【陸墨】水平を表示する基準高さの墨で、「りくずみ」とも言います。腰墨、水墨、水平墨とも言われます。

【立て墨】壁や柱などの面に表示した、垂直方向の線です。

【地墨】床など水平面に直接付ける墨のことです。

【仕上げ墨】通り芯や躯体面からの仕上がり寸法を記入表示した墨です。



【壁芯】壁の中心を通る線です。

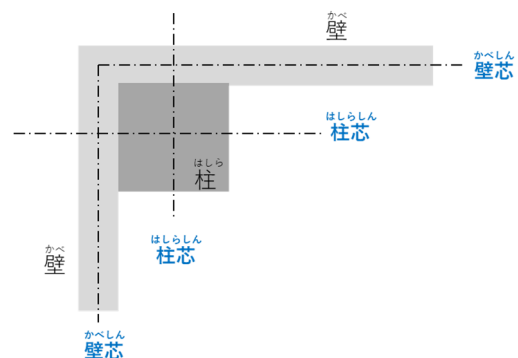
【柱芯】柱の中心を通る線です。

【親墨】通り芯や陸墨のような、次の工程の

墨出し作業の基準となる線のことを指して「親墨」と言います。

【矩を振る】直角の墨を出す作業のことです。

【墨付け】木造部材に、加工のための目印をつけることです。



## 4. 2. 2 遣り方に関する用語

【遣り方】建物を建てるための基準線（柱や壁の中心や水平線）、建物の位置、直角、水平（高さの基準）が分かるように作る「仮の囲い」です。木製の杭と水貫と呼ばれる板を使って作ります。土木工事では、「丁張り」という言葉が使われます。

【水貫】遣り方を作るときに、杭に対して水平に打ち付ける板材のことです。

【水盛り】建物の高さの基準となる水平を定めることです。水盛り缶という道具を使うことからこう呼ばれます。

【地縄張り】建物の位置を決定するために、地面に印をつけることです。縄やタフテープを用います。

【水系】遣り方の際に、水貫と水貫の間に張り渡された、水平を示す糸です。通り芯の基準となります。

【ベンチマーク・BM】敷地内の高さや建物の高さの基準点のことです。建物が完成するまで、撤去しません。BMを基準にして、これより高い位置は「+」の数字で表し、低い位置は「-」の数字で表します。例）GL=BM+200

【GL】ground level または ground line の略。建物が建つ土地の表面の高さです。

【FH】Formation Height の略。計画している土地の高さです。

【FL】Floor Level または Floor Line の略。床の仕上がり面の高さのことです。1階は「1FL」、2階は「2FL」のように表します。

【SL】Slab Level または Slab Line の略。スラブの仕上がり高さです。

【CH】Ceiling Height の略。FLからの天井仕上がり面までの高さです。

## 4. 2. 3 土工事に関する用語

【土工事】建物の地盤・基礎や地下工作物を作るために工事をするということです。

【盛り土】斜面や平坦でない土地、低い土地に土砂を盛り上げて、平らな地表を作ることです。

【段切り】急な斜面に盛り土をするとき、盛り土が滑り落ちないようにするために、階段状に地盤を削ることで。

【締固め】土砂やアスファルトに対して圧力を加えることで、粒子同士の隙間を少なくして密度を高める（「密実」と言います）ことです。たとえば舗装工事などをするときにしっかりとした路盤を作るために締固めを行います。

【転圧】タイヤローラーなどを使って土を締固めることです。ランマなどの小型機械で割栗石や砂利などを締固めることも転圧と言います。

【埋め戻し】地中梁などの地下工事の完了後に、建物内外の土間下まで土を入れることです。

【突き固め】埋め戻した土を、ランマやプレートなどを使って密度を高くすることです。

【路盤】アスファルト舗装において、路床の上に作られる層です。アスファルトによる表層から伝えられる力を、分散して路床に伝える役割をします。

【路床】舗装を支えている地盤のうち、舗装の仮面から約1mのところにある部分です。

【表層】アスファルト舗装において、最上部にある層のことです。

【地縄はり】基礎の外周に、縄やビニールひもなどを使って、基礎の範囲を示す目印をつけることです。建築で使われる言葉です。

【根切り】重機などを使って、基礎の底となる部分まで穴を掘る（「掘削」と言います）ことです。

【根入れ長さ】根切り底から基礎や杭の先端までの長さや深さのことです。

【素掘り】地盤が良好で、崩壊の恐れがない場合に、土の崩れを防ぐ「土留め」をしないで行う掘削のことです。

【土留め】法面や盛り土、掘削した溝などが崩れないようにするために、土を留めることです。

【擁壁】「土留め」のうち壁状の構造物を、特に「擁壁」と言います。

【場所打ち】コンクリート工事で、工場で作られたコンクリート製品を使わずに、現場で直接コンクリートを打ち込む作業をすることです。「現場打ち」とも言います。たとえば、杭打ちには、「既成杭工法」と「場所打ちコンクリート杭工法」があります。

【打つ】「打つ」は叩くことの意味ですが、建設用語としては、コンクリートを流し込むことを「打つ」または「打設する」と言います。

【余堀り】根切りで、作業スペース分だけ、余分に掘削することです。

【鋤取り】敷地や根切り底の余分な起伏を、所定の高さに平らに削り取ることです。

【床付け】ほぼ計画深さまで掘削した後で、根切り底を正確に平らに仕上げることです。

【杭間さらい】床付けのときに施工した、杭の間の土や、周辺地盤の盛り上がった土を掘り揃えることです。

【段跳ね】根切りが深い場合、掘った土を外に出す（「排土」と言います）ために、地山を階段状に残して、掘削土を順次上段に跳ね上げていくことです。

【地山】自然の状態で地盤を指す言葉です。

【法面】傾斜面のことで「のり」とも言います。工事現場では、勾配のついた掘削面を指します。

【山がくる】山留めや、掘削した法面が崩れることです。現場の災害につながることも多くあります。

【山留め】地盤が崩れないように、矢板などを使って土をおさえることです。敷地に余裕がある場合は、地盤を斜めに削る「オープンカット工法」が行われます。敷地に余裕がない場合は、壁や支保工を設ける「山留め壁オープンカット工法」が用いられます。

【矢板】土止め用の板です。

【鋼矢板】相互に接合できるように、端部を溝形にした鋼製の矢板です。

【水替え】根切り底に溜まる水を、釜場やポンプで排水することです。

【釜場】水替えのための揚水ポンプを据える穴のことです。

【山砂】<sup>やまづな りくち さいしゆ すな かわ さいしゆ すな ほすいせい たか とくちょう</sup>陸地より採取した砂です。河で採取された砂よりも保水性が高いという特長があります。

【水締め】<sup>みずし うめもど つち みず そそ しめかた う もど みつ</sup>埋戻し土に、水を注ぎながら締め固めることです。埋め戻しをより密にするために<sup>おこな やまど よう こうやいた ひ ぬ しゅうへんどしゃ ふちやく いっしょ</sup>に行います。たとえば山留め用の鋼矢板を引き抜くと、周辺土砂が付着して一緒に<sup>で すきま じょうたい う もど ちんか</sup>出てきます。隙間がある状態でそのまま埋め戻すと、しばらくすると沈下するため、これを抑えるために水締めを行います。<sup>おさ みずし おこな</sup>

【万棒】<sup>まんぼう げんば はい だいすう にんずう まるた きぐい ほんすう かぞ</sup>現場に入るトラックの台数や人数、丸太・木杭の本数を数えることです。

#### 4. 2. 4 地業・基礎工事に関する用語

【地業】<sup>じぎょう きそ</sup>基礎スラブの下部分、またはその工事のことです。基礎スラブを支えるために、<sup>すな じゃり わりぐりいし す くい もう ざいりょう しゅるい</sup>砂・砂利・割栗石、捨てコンクリート、杭などを設けます。材料の種類によりさまざまな地業があります。<sup>じぎょう</sup>

【基礎】<sup>きそ けんぞうぶつ おも けんぞうぶつ かじゅう い ちよくせつじばん つた ぶぶん</sup>建造物の重さ（「建造物荷重」と言います）を直接地盤に伝える部分です。<sup>ちよくせつきそ くい きそ</sup>直接基礎、杭基礎があります。

【直接基礎】<sup>ちよくせつきそ けんぞうぶつ かじゅう ちよくせつじばん つた きそ たてもの ていめんすべ きそ つく</sup>建造物荷重を直接地盤に伝える基礎です。建物の底面全てに基礎を作る<sup>きそ きそ い とく かじゅう か ぶぶん せこう もじ</sup>基礎を「ベタ基礎」と言います。また、特に荷重が掛かる部分だけに施工する「T」の文字<sup>さか かたち きそ い じばん かた</sup>を逆さにしたような形の基礎を「フーチング」と言います。どちらも地盤が固くしっかりとした場所<sup>ばしよ つか</sup>で使われます。

【杭基礎】<sup>くい きそ じばん よわ ばしよ つく きそ えんとうじょう くい よ はしら かた</sup>地盤が弱い場所で作られる基礎です。円筒状の「杭」と呼ばれる柱を、固<sup>じばん とうたつ けんぞうぶつ かじゅう ささ</sup>い地盤に到達させることで、建造物荷重を支えます。

【スラブ】<sup>へいばん せきばん い み ことば たてもの</sup>もともと「スラブ」は、平板や石板を意味する言葉ですが、建物においては、<sup>ゆか きそ たい ぶぶん さ たてもの ささ こうぞう こうぞう</sup>床や基礎など平らな部分を指します。建物を支えるスラブは「構造スラブ」、構造スラブでも特に基礎部分を指す場合には「基礎スラブ」、梁が無いスラブを「フラットスラブ」と<sup>とく きそ ぶぶん さ ばあい きそ はり な</sup>言うように、いろいろな言葉と組み合わせて用いられます。<sup>い ことば く あ もち</sup>

【杭地業】杭基礎の地業です。既成コンクリート杭地業、鋼杭地業、場所打ちコンクリート杭地業があります。

【基礎免振】地震が発生したときに、建物にかかる水平力を吸収して、建物に伝わる力を抑える仕組みのことです。地震が多い日本で、ビルやマンションを建てるときに必要な工法です。地盤と基礎部の間に設けます。

#### 4. 2. 5 足場・仮設工事に関する用語

【足場】用途・構造別によりさまざまな足場の種類があります。建設現場では、単管や専用の部材を使って組んだ、仮設の床や通路を指します。枠組み足場、単管足場、くさび緊結式足場などが良く利用されます。

【作業床】人が乗って作業ができるように、足場板（「布板」と言います）などを張り渡して作られた足場の床のことです。

【仮囲い】工事現場と隣地や道路などの間をふさぎ、危険防止や盗難対策のために工事関係者以外の人の場合内への出入を制限する仮の囲いのことです。

#### 4. 2. 6 鉄筋・型枠・コンクリート打設工事に関する用語

【配筋】鉄筋を配置して組み立てることです。ダブル配筋、シングル配筋、千鳥配筋などの配筋方法があります。

【拾い出し】図面や仕様書から、必要な材料やその数量、労務（何人分の手間がかかるのか）を算出することです。

【あそび】余裕やゆとりのことです。

【あき】鉄筋と鉄筋の間の距離です。

【間隔】鉄筋の中心どうしの距離です。

【捨てコンクリート】主に、墨出しや型枠の建込み用のために、5 cm～10 cmの厚さで平らに打つコンクリートです。略して「捨てコン」と言われます。墨出した高さの基準を作る目的のほか、型枠や鉄筋を正確に配置するための下地として捨てコンを行います。

【結束】結ぶこと。鉄筋工事では、鉄筋と鉄筋が交わっているところを、専用の結束線を「ハッカー」と呼ばれる道具を使って結束します。「たすき掛」けや「片だすき」と呼ばれる結び方があります。

【かぶり厚さ】鉄筋とこれを覆うコンクリートの表面までの距離です。

【建込み】墨出し線に合わせて型枠を立てていく作業のことです。

【ノロ】セメントを水で溶いたものを「ノロ」と言います。型枠工事で、型枠のつなぎ目の隙間からコンクリートが漏れ出すことがあり、これもノロと言います。

【アンコ】コンクリートに複雑な溝や欠き込みを作るときに、その部分に打ち込んだコンクリートが回らないようにするための部材のことです。コンクリートが固まった後は取り外します。

【転用】同じ型枠材を、別の現場でも使うこと。ビルなどの工事で各階の構造が同じ場合、使った型枠を上の方階に上げて、再度使用します。

【パンク】コンクリートの打設中や硬化（固まること）の途中で型枠が壊れてコンクリートが流れ出すことです。「支保工」が十分でないときにパンクします。

【釘仕舞】型枠材の再利用のために型枠から釘を抜き取ることです。このことから、型枠の後片付けを意味する言葉として使われます。

【打ち込み】コンクリートを型枠内に流し込こんで、隙間なく詰め込むことです。

【打ち重ね】固まっていない状態のコンクリートの上にコンクリートを打ち込むことです。先に打ったコンクリートが固まらないうちに打ち重ねをしないと、コールドジョイントが発生します。外気温が25℃未満の時には150分以内、25℃以上の時には120分以内

【コールドジョイント】打ち重ねのタイミングが適切でない場合に起こるつなぎ目のこと

です。

【打ち継ぎ】<sup>う つ かた じょうたい</sup>固まった状態の<sup>うえ</sup>上にコンクリートを<sup>う こ</sup>打ち込むことです。

<sup>こうぞうじょう ぼうすいじょうもんだい ほんだん ぼしょ たい</sup>構造上や防水上問題ないと判断した場所に対して「打ち継ぎ」をします。

【締固め】<sup>しめかた</sup>土工事で<sup>ど こう じ</sup>も出てきた<sup>こと ば</sup>言葉ですが、コンクリート<sup>だせつ</sup>打設では、<sup>う こ</sup>打ち込んだコンクリートを<sup>しんどう</sup>バイブレータで<sup>かたわく</sup>振動させたり、<sup>たた</sup>型枠をゴムハンマーで叩いたりして、コンクリートの<sup>すきま な みつ</sup>隙間を無くして密にすることです。

【タンピング】<sup>う こ</sup>スラブに打ち込んだコンクリートが<sup>みつ じょうたい</sup>密な状態になるように、<sup>かたわく</sup>スラブ型枠の<sup>ひょうめん たた</sup>表面を叩くことです。

【練り混ぜ】<sup>ね ま</sup>セメントと<sup>こつざい きんいつ ま あ</sup>骨材を均一に混ぜ合わせることです。

【配合】<sup>はいごう</sup>コンクリートを作る<sup>つく かくざいりょう わりあい</sup>各材料の割合のことです。

#### 4. 2. 7 <sup>おさ じょうたい あらわ よう ぐ</sup>納まり・状態を表す用語

【納まり】<sup>おさ もの はいち あらわ こと ば おさ おさ わる</sup>物の配置のバランスを表す言葉です。「納まりがいい」「納まりが悪い」という<sup>つか かた</sup>使い方をします。

【取合い】<sup>とりあ いじょう こと ぶざい で あ ぶぶん ぶぶん しょち ぶざい</sup>2 つ以上の異なる部材が<sup>かしょ</sup>出会う部分、またはその部分の<sup>ばあい と あ わる い</sup>処置のことです。部材<sup>かた おさ わる い かた おな い み つか てんじょう かべ と</sup>どうしがぶつからないはずの箇所<sup>あ い ばあい てんじょう かべ せつごう ぶ さ</sup>で、ぶつかっていた場合、「取合いが悪い」という<sup>さ こと ば</sup>言い方をします。「納まりが悪い」という言い方も同じ意味で使われます。「天井と壁の<sup>あ い ばあい てんじょう かべ</sup>取<sup>せつごう ぶ</sup>合<sup>さ</sup>い」と言った場合、天井と壁の<sup>さ</sup>接合部のことを指します。

【見付け】<sup>み つ し あ しょうめん み ぶざい めん</sup>仕上げたときに正面に見える部材の「面」のことです。

【見え掛かり】<sup>み が み つ おな けんちく ぶざい め み ぶぶん さ こと ば</sup>「見付け」と同じように建築の部材で、<sup>み つ ぜんめん み たい み が すきま み なな</sup>目に見える部分のことを指す言葉です。「見付け」は<sup>み じょうたい あらわ</sup>全面が見えるのに対して、「見え掛かり」は、隙間から見える、斜めから見えるという<sup>さ</sup>ような状態を表しています。

【見え隠れ】<sup>み かく み が ぎやく み かた すく い み み</sup>見え掛かりとは逆の言葉で、見え方が<sup>かく い み なに う ぐ み ぶざい さ</sup>少ないことを意味します。「見えたり隠れたり」という意味で、何かを動かしたりめくったりすると見える部材を指します。

【通り】直線になる状態のことです。曲がっていたり、歪んでいたたりした場合は、「通りが悪い」と言います。直線になっているかどうかを確認する作業のことを「通りを見る」と言います。

【面】表面のことを差す言葉です。「めん」とも言います。

【面一】2つの部材の表面が平らにそろっている状態を表す言葉です。「面一にする」と言うように使います。

【反り】凹状態になった線や曲面を指す言葉です。

【起り】凸状態になった線や曲面を指す言葉です。

【陸】水平なことを指し、「りく」とも言います。たとえば、水平な屋根を陸屋根と言います。

【不陸】表面などが凸凹になっている状態を表す言葉です。「ふりく」とも言います。

【目違い】板やボード、タイルなどを継合せたとき、お互いの面が同じ平面とならないときや、目地がずれていることを表す言葉です。

【拝む】直立しているべき建物などが傾いている様子を表す言葉です。

【矩】直角のことです。

【転び】本来垂直であるべき柱や壁が傾いている状態を言います。柱を傾斜させて使う時にも使います。

【逃げ】あらかじめ取っておく寸法上や納まり上の余裕のことです。材料の加工誤差や、現場の取り付け誤差などを吸収するために「逃げ」を取ります。

【見切る】2つの仕事のつなぎ目をきれいに処理することです。これを行うための部材を「見切り材」と言います。たとえば、床と壁の境目の部分を見切り材できれいに納めます。また、壁を塗る場合は、つなぎ目に養生テープを貼ることで、隙間なく仕上げるができます。

【馴染み】2つ以上の部材を組み合わせるとき、接合部分がしっかりと密着していることを表す言葉です。密着の具合が良い場合は「馴染みが良い」と言い、密着具合が悪

ばあい なじみ わるい い  
【場合】「馴染が悪い」と言います。

す ざいりようじたい こうぞう し あ かんけい せこうじょう おさ  
【捨て】その材料自体は構造や仕上げに関係しないで、施工上の納まりをよくするた  
めを使う材料に使う言葉です。例えば、「捨てコンクリート」のように使います。

すきま ぜんめん ひろ ようす あらわ ことば きそ たてもの ていめん  
【ベタ】隙間なく全面に広がっている様子を表す言葉です。「ベタ基礎」は、建物の底面  
全体にコンクリートを流し込んだ基礎です。「ベタ塗り」は、面全体に塗装することです。

せつけいじ よぶん おお し あ ぶぶん さ し あ めん ぜんめん  
【ふかし】設計時より余分に大きく仕上げた部分を指すことです。また、仕上げ面を前面  
に出すことを表す場合にも使われます。「ふかし」を設けることを「ふかす」と言います。

てもど す さぎょうこうてい なお てもど お つか  
【手戻り】済んだ作業工程をやり直すことで「手戻りが起こる」のように使います。

だんど てもど な せこう ほうほう かんが てじゅん けいかく  
【段取り】手戻りが無いように、あらかじめ施工の方法を考え、その手順を計画するこ  
とです。

てなお す さぎょう たい いちぶぶん しゅうせい せつけいず こと ぶぶん  
【手直し】済んだ作業に対して、一部分を修正することです。設計図と異なる部分や  
施工不良部分があった場合に、手直しをします。

だめ けんちくこうじ かんせい だんかい み お のこ ぶぶん あらわ  
【駄目】建築工事がほぼ完成した段階で、見落としや残っている部分があることを表す  
ときに使います。その部分を仕上げることを、「駄目直し」と言います。

たっぱ たっぱ たか  
【建端・立端】高さのことです。

うわば もの ぶざい うえ はじ ぶぶん あらわ ことば  
【上端】物や部材の上の端の部分を表す言葉です。

したば もの ぶざい した はじ ぶぶん あらわ ことば  
【下端】物や部材の下端の部分を表す言葉です。

## 4. 2. 8 長さ・広さ・幅に関する用語

わ つ かんかく  
【ピッチ】割り付けの間隔のことです。

お きじゅん いち すんぼう だ  
【追う】基準となる位置から寸法を出していくことです。

すんぼう なが  
【寸法】長さのことです。

いっけん にほん ふる つか なが たんい やく せいかく  
【一間】日本で古くから使われている長さの単位です。約1.8m。正確には1818 mm。

いっしゃく にほん ふる つか なが たんい やく  
【一尺】日本で古くから使われている長さの単位です。約30.3 cm。

【一寸】 一尺の10分の1です。約3.03 cm。

【一坪】 日本で古くから使われている面積の単位です。一坪＝一間×一間。

#### 4. 2. 9 建物の構造を表す用語

【RC造】 RCはReinforced Concreteの略です。鉄筋を組んだ型枠にコンクリートを流しこんで固めた建物の構造のことです。「鉄筋コンクリート造」とも言います。

【S造】 SはSteelの略です。柱や梁に鉄骨を使用した建物の構造のことです。「鉄骨造」とも言います。

【SRC造】 S造とRC造を組み合わせた建物構造です。鉄骨の周りに鉄筋を組んで、コンクリートを打ち込みます。「鉄骨鉄筋コンクリート造」とも言います。

【木造】 柱や梁に木材を使用した建物の構造のことです。

【コンクリートブロック造】 コンクリートブロックを積み上げた建物の構造のことです。

#### 4. 2. 10 電気工事・電気通信工事に関する用語

【接続】 一般に、2つ以上のものをつなぐことを「接続」と言います。通信線どうしをつなげる場合には、「結線」とも言います。

【配線】 メタルケーブルや光ファイバーケーブルなどを張り巡らせることです。

【離隔】 配線や配管どうしを離すことです。その距離を「離隔距離」と言います。

【絶縁】 電気が流れる部分から、他の部分に電流が流れないようにすることです。

【貫通】 壁、床、天井などに反対側まで穴を開けることです。

【管路】 電線を通す管のことです。管を使って地中に電線を埋める方法を「管路式」と言います。

【埋設】 電線などを地中に埋めることです。主に次の3つの埋設方法があります。

かんろしき こうしつ かん きんぞくかん まいせつ なか とお ほうほう  
・管路式：硬質ビニル管や金属管を埋設してその中にケーブルを通す方法です。

ちよくせつまいせつしき じかまいせんよう つか はいせん ほうほう  
・直接埋設式：直埋専用ケーブルを使って配線する方法です。

どう せんよう きょうどうこう つく でんせん とお ほうほう  
・とう道：専用トンネルや共同溝を作って電線を通す方法です。

かくうはいせん でんちゅう つか たてものない はいせん ほうしき  
【架空配線】電柱を使って建物内までケーブルを配線する方式です。

はいかん とお かん と つ  
【配管する】ケーブルを通す管を取り付けることです。

つうせん はいかん とお  
【通線】配管にケーブルを通すことです。

はいかん たてもの ゆか てんじょう まいせつしき はいかん  
【スラブ配管】建物の床や天井に埋設式で配管することです。

りやく たてもの なか そと つう つうしんかいせん かんり  
【MDF】Main Distribution Frame の略で、建物の中から外に通じる通信回線を管理・

せつぞく はいせんばん  
接続するための配線盤のことです。

いん めだ なに おお かく たと はいかん かべ なか  
【隠ぺい】目立たないように何かで覆い隠すことです。例えばエアコンの配管を壁の中

とお めだ いん はいかん い  
を通して目立たなくすることを「隠ぺい配管」と言います。

ろしゅつ いん おもて み いん はいかん たい ろしゅつ  
【露出】隠ぺいしないで表に見えるようにすることです。「隠ぺい配管」に対して「露出

はいかん い  
配管と言います。

ふ ぶざい つか てんじょう はいかん でぐち つく  
【伏せる】エンド部材を使って天井スラブからの配管の出口を作ることです。

かんでん じんたい でんりゅう なが  
【感電】人体に電流が流れることです。

ろうでん でんき とお ぶぶん でんき なが  
【漏電】電気が通るべきではない部分に電気が流れてしまうことです。

せっち でんき きき かいろう だいち でんきてき せつぞく ろうでん はっせい とき  
【接地・アース】電気機器や回路と大地を電氣的に接続することです。漏電が発生した時

かんでん ふせ つうしんそうち こしょう まも おこな  
に感電を防ぐとともに、通信装置を故障から守るために 行います。

ひらいしん かみなり たてもの ひと ほご せつび かみなり う すみ たいきちゅう  
【避雷針】雷から建物や人を保護するための設備です。雷を受けて、速やかに大気中

かみなり でんりゅう ほうでん  
に雷による電流を放電します。

ひらいき つうしんそうち たんまつきき らくらい ほご そうち  
【避雷器】通信装置や端末機器などを落雷から保護する装置です。

たんらく でんきかいろう てんかん ていこう すく どうたい むす い  
【短絡】電気回路の2点間を、抵抗が少ない導体で結ぶことです。「ショート」とも言い

ます。

ていあつ ちよくりゅう い か こうりゅう い か はんい ない でんあつ こうあつ  
【低圧】直流で750V以下、交流で600V以下の範囲内の電圧のことです。「高圧」

とくべつこうあつ でんきせつびぎじゅつきじゅん さだ  
「特別高圧」とともに、電気設備技術基準で定められています。

こうあつ ちょくりゆう こうりゆう はんい ない でんあつ  
【高圧】直 流 で 750V～7000V、交 流 で 600V～7000V の範囲内の電圧のことです。

とくべつこうあつ ちょくりゆう こうりゆうとも こ でんあつ  
【特別高圧】直 流、交 流 共に 7000V を超える電圧のことです。

あっちゃく あつりよく くわ せつごう でんきこうじ しんせん あっちゃくたんし  
【圧着】圧 力 を加えることで接合することです。電気工事では、芯線と圧 着 端子を

あっちゃく せんよう こうぐ あっちゃく  
圧 着 させるための専用の工具（圧 着 ペンチなど）があります。

ちょくりゆう じかん おお ほうこう か でんりゆう  
【直 流】時間によって大きさや方向が変わらない電 流 のことです。DC (Direct Current)

い  
とも言います。

こうりゆう おお む しゅうきてき へんか でんりゆう い  
【交 流】大きさや向きが周期的に変化する電 流 です。AC (Alternating Current) と 言

います。

てんめつ き  
【点滅】ついたり消えたりすることです。

ひふく しんせん おお ぜつえんぶぶん  
【被覆】芯線を覆っているビニルや絶縁部分のことです。

いちじがわ に じがわ でんきせつび でんき はい がわ いちじがわ でんき で がわ に じがわ  
【一次側・二次側】電気設備に電気が入ってくる側を一次側、電気が出ていく側を二次側

い  
と言います。

ま し かくにん ふたた し さぎょう  
【増し締め】ビスのゆるみがないか確認し、再 び締める作業のことです。

【マーキング】増し締めしたあ 後、時間経過し振動などでビスがゆるむことがあります。

このビスがゆるんだことが分かるようにするために 印 をつけることを「マーキング」と言

います。

つうでん でんき とお  
【通電】電気が通っていることです。

【あたる】何かを調べることを「あたる」と言います。電気工事では、検電器を使って通電

じょうたい しら そくていき つか でんあつ でんりゆう しら つか  
状 態 を調べたり、測定器を使って電圧や電 流 を調べたりするときに使います。

【かしめる】あっちゃく もち あっちゃくたんし でんせん  
圧 着 ペンチなどを用いて、リングスリーブなどの圧 着 端子をつぶして電線

せつごう ぶ かた と  
の接合部を固く止めることです。

し こ まえ さぎょう おこな じゅんび  
【仕込む】前もって作業を行 うための準備をしておくことです。

ふ しょうがいぶつ さ はいかん はいせん へんこう  
【振る】障 害 物を避けるために配管や配線ルートを変更することです。

せ ものどうし  
【競る】物同士がぶつかりそうになっていることです。

と お さどう かいろ かいほう  
【飛ぶ・落ちる】ブレーカーが作動して、回路が解放されることです。

【Φ】直 径 のことです。正しい読み方は「ふあい」ですが、建 築 業 界 では「ぱい」といいます。

#### 4. 2. 11 ライフライン・設備工事で使われる用語

【空 調】部屋の温度、湿度などを調 整 することです。「空気調和設備」の略です。

【温度】熱い冷たいの度合を表 ず言葉です。日本では、「℃」（摂氏）の単位を使います。

【湿度】空気中に含まれる水分の割合のことです。水分が多いと「ジメジメとし湿度が高い」と言い、また水分が少ないと「爽やかで湿度が低い」とのような言い方をして湿度を表現します。単位は「%」を使います。

【換気】部屋の汚れた空気を、きれいな空気と入れ替えることです。

【排 煙】火災時に発生する 煙などを、部屋の内部から外部へ排 出することです。

【衛生】人の健康を守ることや、清潔を保つことです。「衛生設備」と言う場合には、厨房以外の水回りに関する設備（トイレ、浴室など）を指します。

【死水】貯水タンクや配管内で、水が止まったままで動かない時間が長く続いた状態の水を指す言葉です。

【バリ】金属やプラスチックの加工過程で、製品の縁などにはみ出したりしてできる余分な部分のことです。バリを取ってきれいにすることを「バリ取り」と言います。

【逆 流】液体や気体が、ただ なが はんたい ほうこう なが 流れることです。

【分岐】一つの配管が二つに分かれることです。

【伸 縮】伸びたり、縮んだりすることです。

【蛇腹】伸 縮 する筒 状 の形をした物です。

【ライニング】配管やダクトの表 面を薄い膜で被覆することで「コーティング」とも言います。被覆の厚さの違いにより、厚いものをライニング、薄いものをコーティングと言いますが、同じ意味で使われることが多くあります。

ろうえいしけん はいかん おわ あと みず も ろうすい い しら しけん すいあつ  
【漏洩試験】配管が終った後に水漏れ(漏水と言う)がないことを調べる試験です。水圧

しけん まんすいしけん  
試験、満水試験などがあります。

すいあつしけん きゅうすいかん きゅうとうかん はいかん みず い あつりよく も  
【水圧試験】給水管、給湯管などの配管に水を入れて圧力をかけて、漏れがないこ

かくにん しけん  
とを確認する試験です。

まんすいしけん はいすいかん みず み も かくにん しけん  
【満水試験】排水管を水で満たして、漏れがないことを確認する試験です。

こうばい みず なが もう ゆる かたむ  
【勾配】水を流すために設ける緩い傾きのことです。

おすい だいべんき しょうべんき はいすい  
【汚水】大便器、小便器からの排水のことです。

ざつはいすい ふろ せんめんじょ だいどころ はいすい  
【雑排水】風呂、洗面所、台所からの排水のことです。

しん はいかん ちゅうしんせん  
【芯】配管やダクトの中心線のことです。

さき はいかん はし  
【先】配管の端のことです。

つら めん  
【面】フランジの面のことです

## 4.3 共同生活上の注意

### 4.3.1 5S活動

あんぜん す はたら かんきょう つく にほん かつどう おこな  
安全で過ごしやすく働きやすい環境を作るために、日本では5Sという活動が行わ  
れています。5Sとは、Sから始まる整理(Seiri)・整頓(Seiton)・清掃(Seisou)・清潔  
(Seiketsu)・しつけ(Shituke)の5つの言葉を表しています。整理・整頓・清掃の3つ  
をとった3S活動や、これにしつけを加えた4S活動が行われることもあります。

#### ①整理

せいり ひつよう ふひつよう わ ふひつよう しょうぶん あと つか  
整理とは、必要なものと不必要なものを分けて、不必要なものは処分して、後で使う  
ものはしまっておくことです。整理することで、作業に必要なものをすぐに取り出すこと  
ができます。現場へ持ち込む資材などは、当面に使う物だけとして、長期間使用しない物  
は持ち込まないよう整理しましょう。

## ②整頓

整頓とは、必要なものを決められた場所に置くことです。現場へ持ち込んだ資材などは、平行・直角を心掛け、取り出しやすくするために整頓をしましょう。特に使用した工具などは決められた位置に戻し、次に使う人が使いやすいようにしておきましょう。また破損したり具合の悪いものは責任者に報告をしましょう。

## ③清掃

作業終了後は掃除をし、翌日の作業が気持ちよくできるようにしましょう。

## ④清潔

清潔とは、整理・整頓・清掃を行い、汚れが無い状態を保つことです。だれがやっても清潔な状態を保つことができるように、いつ、何を、どこまでやれば良いのかの基準が決められているのが一般的です。

## ⑤しつけ

しつけとは、整理・整頓・清掃・清潔を確実に実行できるようにするために、ルールを決めて、その教育や指導をすることです。決められたルールは、全員で守ることが大切です。

### 4. 3. 2 作業員詰め所

工事現場には、仮設の建物として現場事務所と作業員詰め所が建てられます。現場事務所は、事務仕事や会議などを行うための場所です。作業員詰め所は、作業員が着替えたり食事をしたり休憩するための場所です。作業員詰め所は、作業員全員が気持ちよく過ごせるように、決められたルールを守りましょう。

#### ①喫煙は決められた場所で

建設現場と詰め所は禁煙です。喫煙は用意された場所でしましょう。まわりから見えない場所で隠れて喫煙することはいけません。

## ②ごみのポイ捨て禁止

ごみを決められた場所以外に捨てることを、日本では「ポイ捨て」と言います。ごみのポイ捨ては禁止です。ごみはリサイクルを意識して、決められた場所に正しく分けて捨てましょう。もしごみが落ちているのを見つけたら、積極的に拾って決められた場所に捨てましょう。またガムを噛みながらの作業もしてはいけません。ポイ捨てにつながるだけでなく、落下物があつた時に、誤って舌を噛むなどの事故にもつながります。

## ③ヘルメットや安全帯は決められた場所に置く

ヘルメットや安全帯は、使用後に適当な所に置いてはいけません。決められた場所に置いてから休憩しましょう。

## ④私物はロッカーに入れる

私物の紛失はトラブルの原因になります。私物はロッカーに保管しましょう。

## ⑤手洗い・消毒・うがいの実施

詰め所へ入出する時は、手洗いや消毒、うがいなどを行い衛生に気をつけましょう。

## ⑥掲示板を確認する

掲示板には、全員に知ってほしいことだけではなく、保険の情報など、個人に役立つ情報が掲示される場合があります。掲示板を見る習慣をつけましょう。

## 4. 3. 3 服装の注意

日本には「服装の乱れは心の乱れ」という言葉があります。「服装がだらしない人は内面も美しくない」という意味ですが、建設現場ではこれに安全という意味が加わりま

す。次のような服装はやってはいけません。

### ①半袖、短パンでの入場

建設現場には危険がたくさんあります。作業中に露出するのは、手と顔だけです。そ

げんば さぎょう てき さぎょうふく ちゃくようはんそで たんにゅうじょう  
の現場では、作業に適した作業服を着用しましょう。半袖や短パンで入場してはい  
けません。また、作業着は洗濯をして、清潔を心がけましょう。

## ②上着の前開け

うわぎ まえあじょうたい  
上着のボタンをはずして前を開けた状態にするのはやめましょう。作業現場には突起  
ぶつ物がたくさんあり、引っかかることで、けがや事故につながります。

## ③袖まくり

そでふせ  
けがを防ぐために、袖は手首までおろして着用しましょう。

## ④ポケットに手を入れての歩行

ていほこう  
ポケットに手を入れたまま歩行することはしてはいけません。とっさの転倒に  
たいおう  
対応できず、けがや事故につながります。

## 4. 3. 4 言葉づかい

こうじげんば さぎょう すすじゅうよう  
工事現場でスムーズに作業を進めるためにはコミュニケーションが重要で、そのため  
のポイントを表した「ほうれんそう」という言葉があります。「ホウレンソウ」と言う野菜  
あらわ  
があるのに合わせた言い方です。「ほうれんそう」は、ほうこく れんらく そうだん く あ  
報告・連絡・相談を組み合わせた  
ことば  
言葉です。明るく、話したいポイントを絞ってわかりやすく、結論は先に言うようにしま  
しょう。

ほうこく しごと しんちよく けっか せんばい しよくちょう つた  
報告：仕事の進捗や結果などを先輩や職長に伝えることです。

れんらく しごと かん じょうほう じぶん せんばい しよくちょう つた  
連絡：仕事に関する情報や、自分のスケジュールなどを先輩や職長に伝えること  
です。

そうだん  
相談：トラブルが発生した場合や、わからないことを先輩や職長に伝えることです。

#### 4. 3. 5 あとかたづけ 後片付け

さぎょうしゅうりょうご 作業終了後は必ずかなら あとかたづ後片付けをします。よくじつ 翌日の作業のさぎょう 段取りやだんど 準備をするつもりで  
あとかたづ 後片付けをしましょう。ひ 火を使った場合は、つか 確実にばあい 消火をかくじつ 確認しょうか しましょう。かくにん